

第41回日本呼吸療法医学会学術集会

共催セミナー(ランチョン)12 LS12

Post-Intensive Care Syndrome;

社会復帰を目指した 集中治療に向けて

座長

国際医療福祉大学 医学部
麻酔・集中治療医学 主任教授

倉橋 清泰 先生

演者

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座
麻酔科学分野 准教授

江木 盛時 先生

日時

2019年
8月4日(日)

12:00~13:00

会場

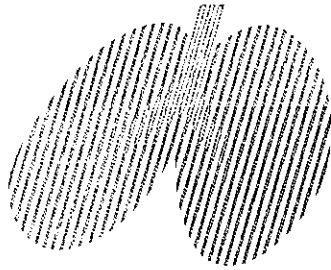
第9会場

(大阪国際会議場3F イベントホールA)
〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

本セミナーは
整理券制です

※セミナー当日の学会会場にて
配布を予定しています。

共催：第41回日本呼吸療法医学会学術集会
丸石製薬株式会社



JAPANESE SOCIETY OF
RESPIRATORY CARE MEDICINE

第41回日本呼吸療法医学会学術集会
共催セミナー(ランチオン)12 LS12

Post-Intensive Care Syndrome;

社会復帰を目指した 集中治療に向けて

神戸大学大学院医学研究科/外科系講座
麻酔科学分野 准教授

江木 盛時 先生

集中治療学の進歩や治療標準化により、集中治療患者の生命予後は年々改善しつつある。敗血症患者を例に挙げれば、その死亡率は近年十数年の間に半減している。過去の集中治療における“勝利”はICU生存退室であったが、死亡率減少に伴い、社会復帰や長期的なQuality of Lifeの維持および改善なども目標とするようになってきている。

2010年に集中治療患者の長期的Outcomeの改善に関する指針が示され、Post intensive care syndrome (PICS)の概念が提唱された。PICSは身体の重症化に引き続いて生じ、長期間持続する身体障害、認知機能障害あるいは精神障害の総称である。呼吸不全あるいはショックを呈した集中治療患者を対象とした多施設前向き研究では、退院後3か月後においてPICSは64%の患者で発生しており、12か月後においても56%の患者にPICSが生じていることが報告されている。また、患者自身にPICSが生じることは、患者家族においても社会的・経済的負担となりうるため、患者家族が精神的な問題(PICS-F)を抱えることも少なくない。PICSが生じた患者では、短期的に生存転機を得ているとはいえ、退院後のQOLが低下し、長期死亡率が高いことが知られており、患者本人だけでなく、患者家族および社会においても大きな問題となりうる。

PICSの発生要因には、患者の重症度に加えて、①検査・治療・ケア、②治療環境、③精神因子の3つの治療側の要因が存在する。検査・治療・ケアには、侵襲的検査、治療の副作用、血液浄化法や人工呼吸などの医療行為が含まれる。環境には、音や光だけでなく、院内感染などが含まれ、精神因子には、不眠、精神ストレス、社会的・経済的不安などが含まれる。

PICSにおける身体障害の予防には、人工呼吸の早期離脱、早期離床、栄養療法などの有効性が検討されており、認知機能障害の予防には、せん妄予防、血糖管理などの有効性検討されている。また、精神障害の予防にはICU日記などの有効性が検討されている。これらの治療は、多職種連携で行う必要があるため、複合的な治療体系をまとめて提供できるようなICU環境の整備が必要であると考えられる。加えて、患者や家族に対する精神的ケアなどがPICS-Fの発症に与える影響も検討されている。

集中治療患者の治療目標が、短期的な生存ではなく、社会復帰および日常生活への回復であることを鑑みれば、集中治療管理において、PICSの予防を含めた長期予後の改善を目指した治療体系の構築が必要である。本講演では、PICSにおける最新の知見を考察し、PICS予防を目指した実際の取り組みを紹介したい。